

# 2013

高校生を孤立させない。

NPO法人D×P 年次報告書

Non Profit Organization D×P Annual Report

Our mission is to create society that each youth can have possibility to their own future by providing career education, life-changing experience.

# ひとりひとりの 若者が自分の未来に 希望を持てる社会

これが、NPO法人D×Pの達成したいビジョンです。

これは「誰しも希望をもつべき」という「べき論」ではなく、そのひとがどんな境遇にあったとしても、自分の未来に希望を「持てる」社会構造を創ろうという意志がこめられています。

数年前、自分の未来に絶望した2人の若者がいました。

イラク人質事件後に国内で激しいバッシングにあい、対人恐怖症になり、家から一歩も出られなくなりました。

「おまえは在日だから」と子どもの頃から夢を否定され続け、高校時代は経済的事情により進学できずフリーター、ニート状態を繰り返す日々を送りました。

それでも2人は周囲の友人の支えで前を向くことができました。今度は、自分たちが誰かを支えたいと強く思いました。

「未来を担う若いひとが、自分の未来に絶望せず、前を向ける社会をつくりたい。」

その想いを、今も変わらず持ち続けています。

## CONTENTS

代表挨拶	3	課題と2014年度の展開	15
D×Pが取り組む課題	4	応援してくださる方々	16
D×Pの取り組み	6	メディア掲載歴・受賞歴	17
現在の成果	7	参加・支援の方法	18
「クレッシェンド」活動報告	8	団体概要	20
「フォルテッシモ」活動報告	12		
その他活動報告	14		

# GREETINGS

## 代表挨拶

2013年度はNPO法人D×P（ディーピー）の2期目の年になりました。

NPO法人D×Pは、「ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会」を創ることを目指して、高校生の進路未決定率・中退率を下げることを目標に、活動している団体です。

通信制高校の生徒を対象に、キャリア教育プログラム「クレッシェンド」と、学外でのチャレンジプログラム「フォルテッシモ」を実施しています。

2013年度は、100名を越える通信制高校の高校生と関わることができました。通信制高校の先生方、ご寄付くださった皆様、約70名の大学生や社会人のボランティア「コンポーザー」の方々、保護者の皆様と協力して、授業を運営していくことができました。

2012年度の立ち上げ当初は試行錯誤を繰り返してきたキャリア教育プログラム「クレッシェンド」も、今年度は一定のクオリティを担保し成果を出せるプログラムとして成長しました。

何より、2014年3月に無事進路が決まってそれぞれの道を歩んでいった14名の生徒たちの顔をみてほっとするとともに、この先彼らに辛いことがあっても戻ってこれる場にならなければと、決意を新たにしました。

一方で、組織として未熟な面が多く、我々もはがゆい思いをしながら一步一步進んで参りました。組織としてできたこと、できなかったことを素直に受けとめ、すぐに行動に移し、改善する。そんなあたりまえのことを、日々、あたりまえに取り組む組織でありたいと思います。

皆様とともに前へ、前へ。  
これからも、共に、課題解決をしていけましたら幸いです。  
今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

NPO法人D×P（ディーピー）  
共同代表 今井紀明 朴基浩



# THE ISSUE

## 2人に1人が進学も就職も しないまま卒業する。

通信制高校を知っていますか？

全日制高校とは異なり、レポート提出と月数回もしくは年数回の登校で、高校卒業資格を取ることができる高校です。

勤労学生が通う学校であったのは、過去のこと。

生徒の半数以上は、全日制高校などを中退し転編入してきた高校生であるという学校が殆どです。約4割の生徒が、不登校経験を持つという調査結果もあります。また、先生方へのヒアリングによると、発達障害を抱えた高校生、生活保護を受給している高校生も多く存在するとのことでした。

通信制高校は、「高校生のセーフティネット」。

様々な事情を抱えた高校生の、受け皿となっています。

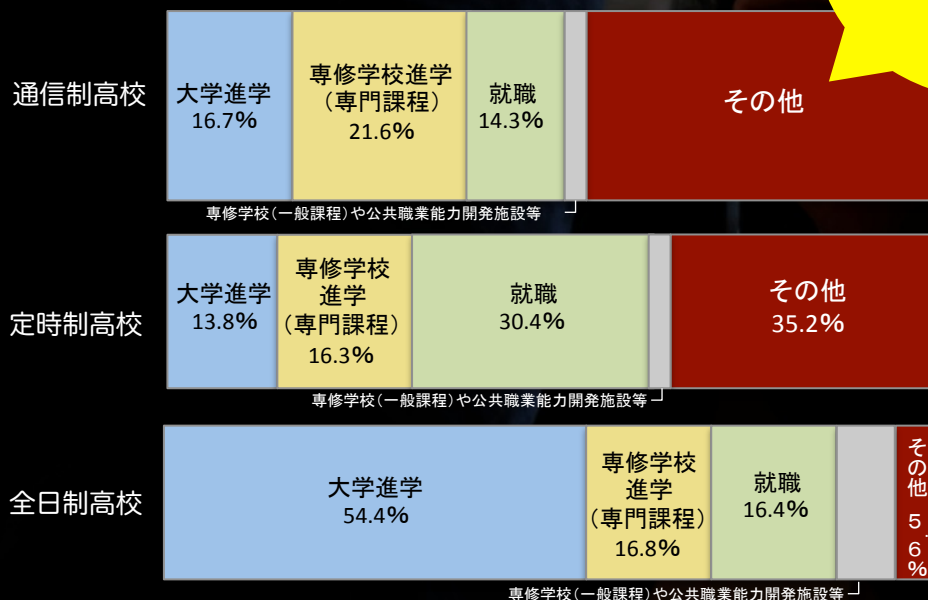
しかし、通信制高校の卒業生の2人に1人が、進学も就職も決まらないまま卒業しています。所属先を失った状態で、社会に放り出される高校生がいるのです。

卒業後は、フリーター・ニート状態を繰り返し、自分の将来に絶望してその生を絶ってしまったり、生活保護受給に至る、最悪の場合犯罪に走る人も存在します。この問題に、D×Pは注目しました。

進路未決定者

44.5  
%

【各高校の卒業生の進路状況】



【出典】  
文部科学省  
「学校基本調査」

# 通信制高校を2011年に卒業した Aさんの場合

中学生のとき  
発達障害のため友だちに  
誤解され、いじめに。  
不登校がちになる。

※Aさんの場合は時間の配分が苦手です。時間の約束を守れず友だちに誤解を受けます。

出席日数が足りず、全  
日制高校に進学できな  
いため、通信制高校へ。

※中学時代の出席日数が足りないと、全日制高校への受験資格がありません。

高校では  
月2回の登校のみ。  
人と会わずに  
3年間を過ごす。

※週4日以上など、登校回数が多い通信制高校もあります。Aさんの場合は、月2回登校の一般的な通信制高校でした。

社会に出ることに  
不安をもつ。  
ニート状態で卒業。

※過去の経験に折り合いをつけられないと、「将来」に対する意志決定が難しくなります。

卒業後は  
アルバイト→辞めるを  
繰り返す生活。

※人間関係が薄いためバイト先でつらいことがあったときに立ち直りづらい状態です。

次第に家に  
ひきこもるように。  
リストカットも常時し  
てしまう。

※リストカット: 手首への自傷行為

# 孤立する 高校生。

# WHY?

## なぜこのような問題が起きるのか？

なぜ、通信制高校の生徒は進路未決定率が高いのか？

通信制高校の先生方にヒアリングを重ねた結果、2つの要因が見えてきました。

ひとつめは、過去の辛い経験を抱えた生徒が多いこと。さらに「通信制高校に来た（＝一般の高校生とは違う）」ことへの引け目もあり、自分に対する肯定感を持たず、進路を決めて突き進むことがなかなかできません。

ふたつめは、進路を決めるだけの人間関係に恵まれていないこと。通信制高校での月数回の登校では、信頼できる同級生や先生と出会うことは困難です。仮に進路が決まって進学しても、大学で辛いことがあった時に心の支えとなるだけの人間関係を構築できておらず、中退してしまう生徒も多く存在します。

# SOLUTION

## D×Pの取り組み

D×Pでは、「自己肯定感を得るための成功体験の獲得」と「社会関係資本（人とのつながり）の獲得」の2つを達成することを目的として、通信制高校の生徒に2つのプログラムを提供しています。

自信は結局、  
“できた”という  
事実からしか生まれない

成功体験（自己肯定感）の獲得

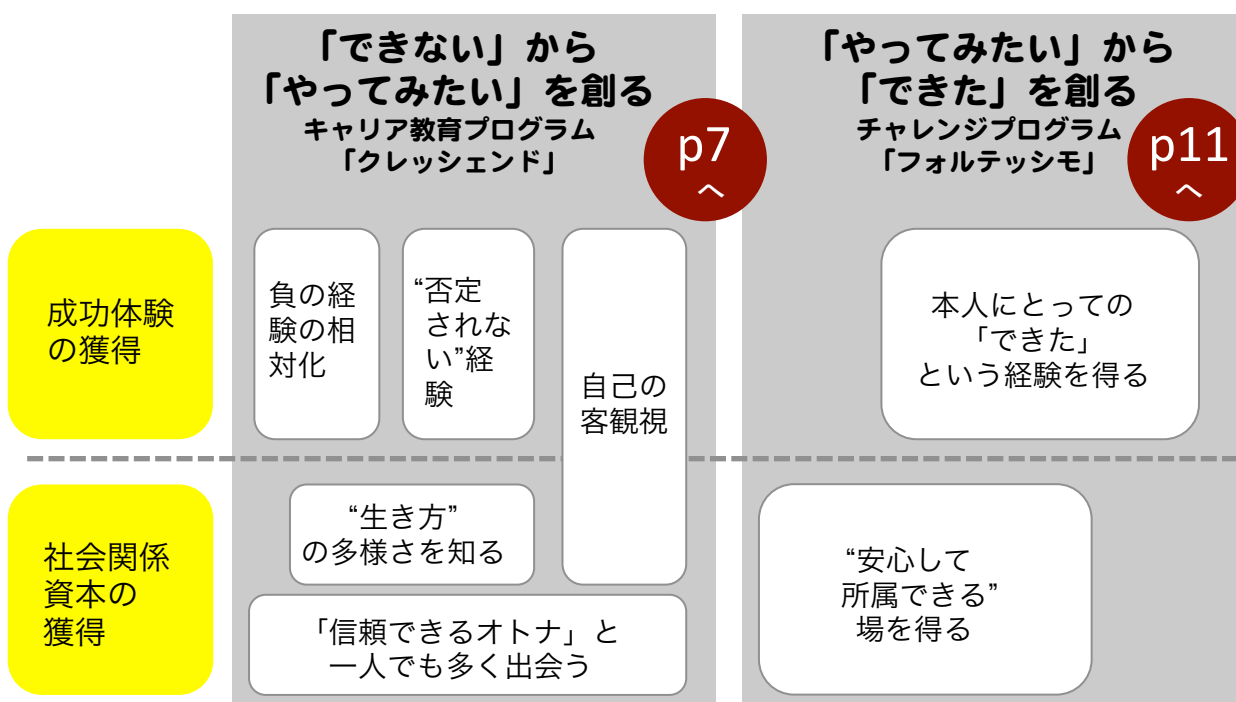


一歩踏み出すきっかけも  
立ち直るきっかけも、  
周りの人がくれた。

社会関係資本の獲得

## D×Pが提供する、2つのプログラム。

※以下は、プログラムとそのプログラムが意図する目的をまとめたものです。



# OUTCOME

現時点でのD×Pの成果

## 2014年3月卒業生 進路決定率

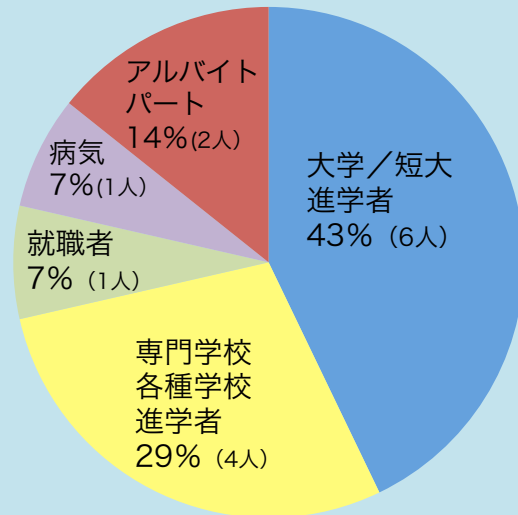
# 79%

※通信制高校全体での進路決定率は55.5%

2012年6月のD×P設立以降、キャリア教育プログラム「クレッシェンド」を受講した生徒のうち、2014年3月に卒業したのは14名でした。「クレッシェンド」は1年生を対象にすることが多く、受講した生徒のうち高校を卒業した生徒がまだ少ない状況です。進路決定率が79%と高い数値を出すことができましたが、母数が14名と非常に少ないため、この結果は「成果」とは言い難いですが、今後も正確な数値を毎年追ってまいります。

※アルバイト・パート：2名ともバイトをしながら正社員目指して就職活動中。  
※病気：病気により1年の休養を予定しており、1年後に就職を目指している。

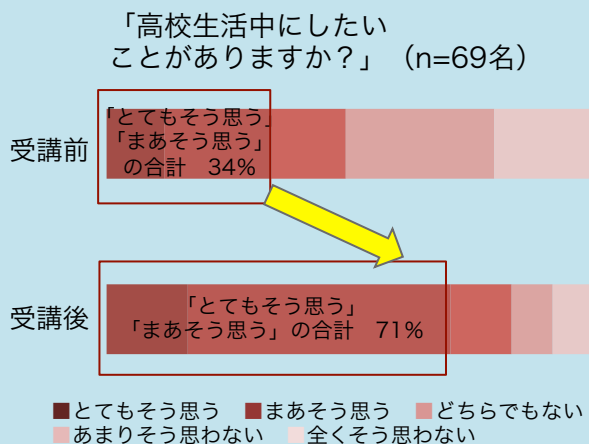
2014年3月に卒業した  
クレッシェンド受講生の進路状況



【出典】NPO法人D×P  
(クレッシェンド実施校へのヒアリングに基づき)

## 高校生活中に したいことがある

# 71%

 (36ポイント増)

2013年度のクレッシェンド受講生に対し、受講前と受講1週間後にアンケートを実施したところ、「高校生活中にしたいことがある」と回答した生徒が34%→71%となり36ポイント増加しました。そのほか、「高校卒業後にしたいことがある」と回答した生徒は44%→63% (19ポイント増)、「将来やりたいことがある」と回答した生徒は47%→63% (16ポイント増)となりました。これからの高校生活や将来へ向けての意欲が高まっていることがわかります。

※アンケート項目には成功体験や社会関係資本にかかる指標も必要です。今後も項目の改善を重ねます。



# REPORT

## 「できない」から「やってみたい」を創る

キャリア教育プログラム クレッシュェンド

キャリア教育プログラム「クレッシュェンド」は、社会人・大学生ボランティア「コンポーザー」との対話を柱としています。クレッシュェンドは、音楽記号で「だんだん強く」という意味。3ヶ月間4回の授業を通じ、自己肯定感を得ていく高校生の様子を表しています。

2013年度は、3校の通信制高校にて36回の授業を行い、およそ80名の高校生に対して授業を実施。のべ45名のボランティアが関わりました。

一方、今年度はスタッフ育成が進まなかったことが課題です。次年度は部長以外の人間が運営できるよう、人材育成にも力を入れていきます。

### プログラムのゴール

クレッシュェンドは以下の目的にもとづきプログラム内容、人材育成、ツール、時間配分にいたるまでを構築しています。

成功  
体験

- ・ 負の経験の相対化
- ・ 「否定されない」経験
- ・ 自己の客観視

社会  
関係  
資本

- ・ 信頼できるオトナと、一人でも多く出会う
- ・ 生き方の多様さを知る

### クレッシュェンドの特徴

point  
01

3ヶ月間の信頼ベースのプログラム

同じ生徒に対し、同じスタッフ・コンポーザーで長期にわたって関わることで、信頼関係を構築します。

point  
02

様々なバックグラウンドの大人と出会う

様々な職種、背景、想いを持ったオトナ（コンポーザー）5人に会うことができます。

point  
03

少人数のクラス運営

生徒10人に対し、コンポーザー5名とスタッフ3名の計8人が関わります。ひとりひとりに寄り添った進捗が可能でです。

point  
04

単位認定された授業

多くの通信制高校で、「クレッシュェンド」は単位認定されています。これにより、中退や進路未決定の可能性が高い生徒にもリーチできます。



# プログラム内容



## 第1回：失敗なんてあたりまえ！

社会人・大学生ボランティア「コンポーザー」から、過去の辛かった経験について聞くことで、高校生が自分の経験を相対化させる授業です。

## 第2回：みんなの生活見てみよう！

コンポーザーの進路選択時の話や、その後の仕事や学校生活の話をしつつ、高校生のやりたいことや、今考えている進路について、話し合う時間です。



## 第3回：みんなでユメブレ♪

全員で1つの円になって、「自分が少しでもやってみたいと思っていること」＝「ユメ」を、シェアするプログラム。自分の想いを否定されずに受け止めてもらう経験をします。

## 第4回：今まで知らなかった自分を 知ろう！

「他の人から見た自分の印象」を伝えてもらうことで、「自分」の再発見をします。自分が持つ可能性を実感できる授業です。



「コンポーザー」  
とは？

D×Pの授業に携わる社会人・大学生ボランティアのこと。  
「コンポーザー」は本来オーケストラの指揮をとる人のことを指しますが、D×Pでは「高校生の可能性を引き出すための伴走役」という意味合いにおいて、関わって頂いています。現在D×Pには、様々な職業・バックグラウンドを持ったコンポーザーが約70名います。



# Interview

2013年度にクレッシェンドを受講してくれた3人の高校生に、受講半年～1年後にインタビューをし、授業を受けた感想を聞きました。  
(本人の名前は伏せています。ご了承ください)

## 「なんで知らん人と話さなきゃいけないの？」

一クレッシェンドはどういう経緯で参加してくれましたか？

Cさん：高校に入ったばかりの頃に、先生に、「1年生は全員D×Pに参加してください～！」と言われたから。

Aさん：私もそうです。先生からは、「大人の人と話します」としか言われなかった。なんで知らん人と話さなきゃいけないの？と思って、嫌やった。初対面の人と話をするのも苦手だったから。

Iさん：正直、授業とは関係がないような感じがしてめんどくさいなあと思った。

一随分いやな印象から始まりましたが…実際1回目の授業に出てみてどうでしたか？

Cさん：フレンドリーだなと思った。でもほどよい距離があって嫌な気持ちははしませんでした。そういえば、スタッフの人が動きがこわばっていたのが印象的でした(笑)でも、このひとも自分と同じように緊張しているんだなと思った。

Aさん：いい意味でゆるい授業でした。いやな感じが全然なかった。

Iさん：割と楽しかった。授業の最初に必ずゲームがあったけど、それが楽しかった。ゲームを絡めながら、人と話すのが好きだった。自分より少し歳上の人と話す機会はなかったから面白かった。4回も授業があるというのは長い感じはしましたけどね。

## ポジティブな話し方で、受け入れやすかった。

一コンポーザーさんの話はどう感じた？

Aさん：コンポーザーさんの、20歳越えてからの失敗経験の話は意外でした。大人でも失敗するだろうというのはわかるけど、その時の考え方や心情が自分たちと同じなんだなと思って共感した。2回目以降の授業も、緊張はしたけど第一印象がよかったから、「もう会いたくない」とは思わなかったかな。

Iさん：大人と言っても若い人が多かったので話しやすかった。年配の人ばかりだとちょっと(コミュニケーションが)難しかったかもしれない。外国行ったり、シェフやったり、バンドやったりと、色んな人がいたなという印象。特に大学生のコンポーザーさんの話は、同年代だったので、共感できるところがたくさんあった。

Cさん：最初は固い感じの話になるんだろうなと思ってた。「私は過去にこんなことがあってこういう失敗をしたから、君たちはこういうふうにしなさい」みたいな…大人の教訓的な話になるんだろうなと思ってました。





実際は違いました。コンポーザーの話の仕方もやわらかくて、「昔こうだったんだけど、私はこうしたよ〜」みたいなポジティブな言い方だったので、受け入れやすかった。

Aさん：それは私もそう思います。私たちと同じような立場として話してくれるような感じがあったと思う。

Iさん：去年会ったコンポーザー、スタッフにまた会いたい。クレッシェンドで嫌だったことはないけど、あるとしたら、4回目の授業で来れなかった人がいたこと。会いたかったです。

## 確かにその時は辛かったけど、その経験があったから、今がある

—どうして通信制高校に来たのかを、聞いてもいい？

Cさん：母が薦めてくれたから。中学時代は、勉強が好きじゃなかった。周りが成績を比べてくるのが嫌でプレッシャーになっていて、気を病むようになった。

人間関係でもいろいろあって、3年生くらいから学校に行かないようになった。当時は進路のことも考えられなかったけど、母が薦めてくれて、通信制だと勉強以外のところでもケアがあることがわかり、何も考えずにそのまま入学した。入学当初はそんなに高校に行くつもりがなかったけど、通信制高校では、集団生活上でのピラミッドのような人間関係がなかったから、今は週4日学校に通えている。

Aさん：いとこがこの通信制高校に通っていて、入学を薦められたから。中学校時代、部活の友人関係で苦しいことがあって、2年生になる前に部活を辞めて、そのあとも辛いことが続いていたときに、いとこに薦められた。普通の高校に通っていたら、文化祭もあって楽しそうやなとは思ってもあるけど、自分はここに来てよかったと思う。

—クレッシェンドを受ける前と後で、どんなことが変わったと思いますか？

Aさん：「確かにその時は辛かったけど、その経験があったから、いまの自分がある」と考えられるようになった。それが一番大きいと思います。

Iさん：イベントごとに積極的になったかなと感じます。強制されるようなものは行きたくなかったけど、参加してみるかと思えるようになった。

## 最初から“行く価値なんかない”と思わないほうがいい。

—先生に「D×Pの授業に参加して」と言われて、同じように「行きたくないな…」と思う高校生がこれからも出てくると思いますが、そんな同級生にメッセージはある？

Iさん：母が自分に言ってくれた言葉があるんですが、「行ってみたいひんかったら、クレッシェンドがいいものかどうかわからないから、最初から“行く価値なんかない”なんて思わないほうがいい」と。本人の行きたくない気持ちをないがしろにはしたくないけど、「行ってみたら何かわかるかもよ」とは言いたい。

※インタビュアー：D×Pスタッフ（入谷）





# REPORT

## 「やってみたい」から 「できた」を創る

チャレンジプログラム「フォルテッシモ」

高校生の学外チャレンジプログラム「フォルテッシモ」は、高校生のやってみたいことに応じて、挑戦する機会を提供するプログラムです。2013年1月から開始した新プログラムで、のべ40名の生徒が様々な挑戦をすることができました。

一方で、参加高校生へのフォローが不十分もしくは過干渉であるなど、D×Pとしての立ち位置が定まらないことが課題でした。また、提供しているコンテンツは企業インターンシップなどチャレンジングな内容が多く、「そこまでの挑戦はまだできない段階にいる高校生」に対するプログラムが少ないことも課題でした。高校生の大きな成長を目の当たりにしつつも、課題の多い1年でした。

## プログラムのゴール

フォルテッシモは以下の目的に基づいてプログラム内容を構築しています。

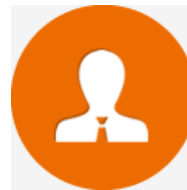
成功  
体験

・本人にとっての「できた」  
という経験を得る

社会  
関係  
資本

・安心して所属できる場を  
持つ

## 高校生が取り組んだ 内容の一例



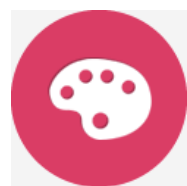
### 企業インターンシップ

1日から最長半年間、企業やNPOでのインターンシップを行います。



### ITスキルの取得講座

日本マイクロソフト様によるITスキル講座「若者UPプロジェクト」に参加。Officeを使うことが出来るようになります。



### アート展や 写真展の開催

アートや写真が好きな生徒向け。アトリエを利用して、自分たちの作品の展示に挑戦します



Photo by Yusuke Kida



## 高校生受け入れ協力団体 (プロジェクト) ※順不同

		<p>学校法人 山口学園 ECC国際外語専門学校 ECCコンピュータ専門学校 ECCアーティスト専門学校</p>
		
		
		<p>但馬屋様 (島根県隠岐郡海士町の旅館)</p>
		<p>※その他、高校生の受け入れはまだ実現していませんが、受け入れ協力団体として名乗り出ている団体様が25団体(プロジェクト)いらっしゃいます。ご理解、誠にありがとうございます。</p>

主旨にご賛同いただき、ご協力くださった皆様です。誠にありがとうございます！



# REPORT

## 学校を支える 学校支援活動事業

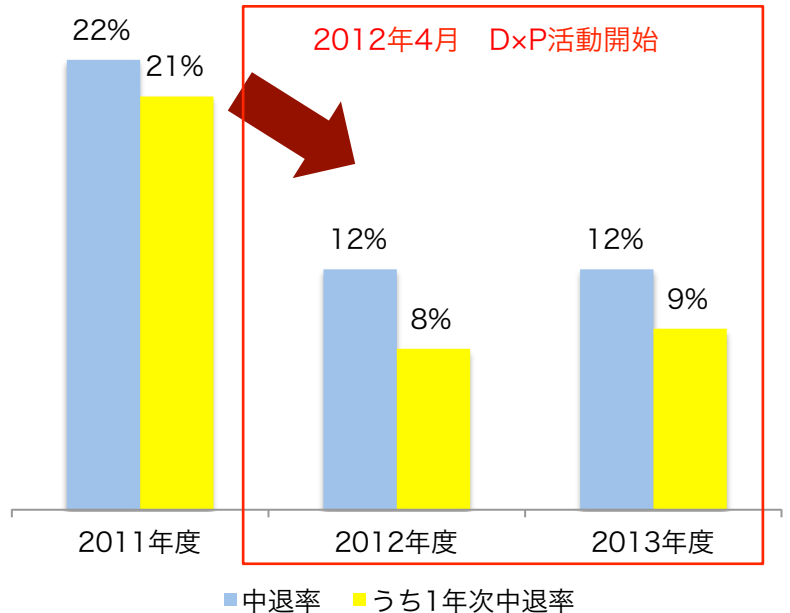
中退や進路未決定によって、高校生が社会で孤立してしまう問題を解決するためには、「中退・進路未決定者を生み出さない学校」を創っていくことも必要です。

NPO法人D×Pでは、偶然のご縁でしたが2012年からある専門学校A校の生徒の中退予防の取り組みをお手伝いさせていただきました。

①生徒情報の整理と蓄積の体制構築、②先生方への研修とフォロー体制構築、③生徒への授業実施の3段階でサポートしたところ、同専門学校の中退率を22%から12%にまで下げたという成果を出すことができました。

課題は、中退予防の取り組みの体系化です。2012、2013年度は手探りの状態でしたが、次年度は成果を維持しながらさらに業務の効率化を図り、他の学校にもこの取り組みを広げていけるよう、動いてまいります。

【専門学校A校の中退率の変遷】



## 課題を伝える 講演事業

通信制高校が世の中に果たしている役割と、一方で中退や進路未決定により、通信制高校の生徒が社会の中で孤立してしまっているという問題を伝えるため、NPO法人D×Pでは講演活動を実施しています。

2013年度は計55回の講演を行い、約1,800名の方にお伝えすることができました。

次年度以降は、外部からのご依頼による講演だけでなく、自主イベントの開催を増やし、自ら発信していく場を増やしていきます。



【講演内容一例】

一般の方  
向け講演

通信制高校の課題をお話すると共に、クレッシュンドで実施している「ユメブレスト」の短縮版も実施しました。

教職員  
向け講演

D×Pの取り組み内容、生徒の変化の様子をお話しました。また、先生方同士の対話の時間を設けて相互理解を図りました。

大学生や  
高校生  
向け講演

「諦めない力」をテーマに、共同代表の今井が過去の経験を柱に、現在の活動についてお話しました。

当事者  
向け講演  
(ニート・フリーター  
等)

共同代表の朴が、通信制高校出身およびニートやフリーター経験があることから、当時の経験談を柱に講演をしました。



# NEXT

## 課題と2014年度の展開

### 定時制高校での授業実施

定時制高校の卒業生の進路未決定率は35.2%と通信制高校に次いで高く、定時制高校での授業の実施に向けて先生方との会合を重ねてまいりました。しかし公立の定時制高校は予算が少なく2013年度は実現が難しい状況でした。2014年度はスポンサー企業様が集まって下さったおかげで、定時制高校2校での授業が実現できることになりました。

### 「フォルテッシモ」強化

2013年度はフォルテッシモプログラムにおける、生徒のアセスメント基準の不明瞭さとコンテンツの偏りが課題でした。2014年度は、高校生が社会関係資本を獲得できるコンテンツ（「部活動」や「同窓会」など）を増やし、参加できる高校生の幅を広げます。

### スタッフ育成

今後の展開を見据え、2014年度は部長だけでなくインターン生が中心になって授業をマネジメントできるよう、スタッフ育成を強化します。研修やフォローの体制を構築し、同時期に多数のクラスを開催できるような仕組みを整えます。

### 通信制高校の生徒の実態調査

日本には通信制高校の生徒の実態調査が非常に少なく、通信制高校の生徒の実態がマクロから読み取れないため、エビデンスに基づいたプログラム提供や、効果的な広報がしづらい状況でした。2014年度は厚生労働省 社会福祉推進事業に採択され、通信制高校の生徒の実態調査ができることになりました。

# Supporter

D×Pを応援して下さる皆様※順不同

 <p>お届けします夢と心 株式会社<b>水晶院</b></p>		<p>ひとの ときを、 想う。</p> 
		
		
<p>福武 純子様</p>		
		
		<p>※ご寄付、ご助成、協働プロジェクト、商品や会場の無償提供、プロボノ支援でD×Pの活動にご協力いただいた企業・個人様です。</p>

- 定額寄付会員（マンスリーサポーター）：2014年3月31日時点で104名
- 自由寄付を頂いた方：2014年3月31日時点で34名
- コンポーザー（社会人・大学生ボランティア）：2014年3月31日時点で71名登録
- プロボノワーカー（スキルを活かしたボランティア）：2014年3月31日時点で9名

## 法人寄付 のご案内

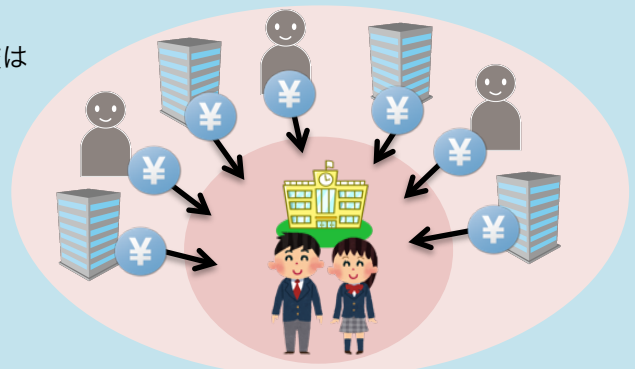
### 学校スポンサー制度

ひとり親家庭出身など、経済的な事情を抱えた生徒が通う定時制課程の高校や全日制の困難校に対して、スポンサー企業・個人のご寄付によってキャリア教育プログラムを導入する制度です。

ご寄付は1口10万円から。寄付先の学校はご指定いただくことができます。

お問い合わせ先

✉ info@dreampossibility.com





# MEDIA

## メディア掲載 (一部)

- 2013.04 朝日新聞 (夕刊) 「自己責任の嵐越え」
- 2013.05 北海道新聞 (朝刊) 「聞く語る」
- 2013.07 婦人友の友 2013年第7号 「人を追い詰めない社会に」
- 2013.11 神戸新聞 (朝刊) 「写真で生きる自信回復  
不登校や引きこもり体験の高校生」
- 2013.11 毎日新聞 (朝刊) 「通信制高校の生徒4人  
フォトブックを出版」
- 2013.11 北海道新聞 (朝刊) 「不登校の日々越え、今がある」
- 2013.11 日本経済新聞 (朝刊) 「リップクリーム収益活用  
通信制高校生を支援」
- 2013.11 日経MJ 「リップクリーム1本で100円 通信校の生徒支援」
- 2013.11 大阪日日新聞 「通信制高校生に渡航経験を ココウェルとD×P」
- 2013.12 朝日新聞 (夕刊) 「「自己責任」の違和感 映画に」
- 2013.12 月刊 学びREVIEW 「若者をニートにさせない NPO法人D×P」
- 2013.12 神戸新聞 (朝刊) 「編集委員インタビュー」
- 2014.01 毎日新聞 (朝刊) ※一面 「ストーリー」
- 2014.01 FMヨコハマ 「Tresen+ (トレセンプラス)」
- 2014.02 東京FM 「Time Line」
- 2014.02 ソトコト3月号 「未来をひらくNPOのアイディア集」
- 2014.02 朝日新聞 (朝刊) 「考 民主主義はいま バッシングの嵐」
- 2014.02 テレビ大阪 「夕方7チャンネル」にて放映

(担当者コメント) 2012年度はイラク人質事件に関連した記事が多くありましたが、2013年度は団体や高校生本人をご取材いただく機会が増えました。高校生本人を対象にした取材は、取材自体が本人にとってのマイナスの経験にならないよう人選と事前フォロー、記者さんとの事前コミュニケーションに配慮しました。

## 受賞歴

- 2011.06 社会起業塾イニシアティブ「花王起業塾」へ選出
- 2012.12 近畿ソーシャルビジネスコンペ2012一般部門にて「準グランプリ」を受賞
- 2013.02 edgeビジネスプランコンペ2013にて、「優秀賞」を受賞

(担当者コメント) 2013年度は、第三者評価を得る機会を持つことについては優先度を下げ、クレッシェンド/フォルテッシモなどのプログラム強化に力を入れました。次年度も同様の方針で運営してまいります。



# JOIN US

## 参加・支援の方法

寄付で  
支援

### 毎月定期的に寄付する

(マンスリーサポーターになる)

1日33円から、「高校生を社会で孤立させない」ためのサポートをすることができます。いただいたご寄付は通信制高校や定時制高校に通う、困難を抱えた高校生の支援に充てられます。

高校生への支援は、未来を創ることと同義です。高校生を孤立させず自分の未来に希望が持てる社会を、ともに創っていきませんか。

D×Pマンスリーサポーターになった方には

ご入会セットが届きます

1. 最新の年次報告書
2. 最新のニュースレター
3. 高校生がつくった会員カード
4. 最新のニュースクリップ

最新の活動報告が届きます

1. 限定メールマガジンのご送付
2. 活動報告イベントにご招待いたします。
3. 最新の年次報告書やニュースレターのご送付



### クレジットカードでのご寄付

VISA・MASTER

D×PのWEBサイトから  
直接お申込みいただけます。


D×P 寄付

検索

もしくはURLを直接入力くださいませ  
<http://www.dreampossibility.com/howtojoin/>

### 口座引落

入会申込書、口座振替依頼書をご郵送いたします。  
メールやお電話で、資料をご請求ください。

 [info@dreampossibility.com](mailto:info@dreampossibility.com)

 06-6935-6111  
(平日10時~16時)

### 自由な金額を寄付する

お好きなタイミングで、お好きな金額をご寄付いただけます。  
直接お振り込みいただけます。

楽天銀行 第二営業支店  
普通 7079724 (トクヒ) ディーピー

お振り込みを終えましたら、ご一報下さいませ。  
お礼に替えて、最新の年次報告書をご送付いたします。

 [info@dreampossibility.com](mailto:info@dreampossibility.com)

## 買って 支援

### リップクリームを購入する

リップ1本につき100円が寄付される  
株式会社ココウェル様との協働商品です。  
<http://www.cocowell.co.jp/fs/cocowell/c/cocofund>



### フォトブックを購入する

通信制高校生が制作したフォトブックです。  
<http://dpphotobook.webflow.com/>



## 行動で 支援

### コンポーザーになる

高校生に関わり、「クレッシェンド」を共に創る、社会人・大学生ボランティアを常時募集しています。年2回程度、コンポーザー説明会を開催しています。


### インターンをする

DxP事務局で働くインターン生を募集しています。  
授業づくりを担う教職インターンと、広報・寄付を担うインターンを募集中。

### 募金箱を設置する

DxPへの寄付につながる募金箱を設置して下さる  
店舗・団体様を募っています。

まずはメールにて  
お問い合わせください

 [info@dreampossibility.com](mailto:info@dreampossibility.com)

## もっと 知りたい

### SNSで最新情報を得る



npodxp



@npo\_DxP

### メールニュースで最新情報を得る

月1回、DxPの活動概要や最新のイベント情報が届きます。

「メールニュース希望」と書いてお申込み下さい



[info@dreampossibility.com](mailto:info@dreampossibility.com)

### イベントに参加する

DxPの活動について知る「活動説明会」  
教育について学ぶ「公開型勉強会」の2つのイベントを定期開催しています。

DxP 公開型勉強会

検索 

# PROFILE

団体名 NPO法人D×P（ディーピー）

設立日 2010年3月9日（法人格取得 2012年6月27日）

役員 理事長 今井紀明

理事 朴基浩

理事 村中直人（一般社団法人子ども・青少年育成支援協会）

監事 毛受芳高（一般社団法人アスバシ教育基金）

職員数 9名（うち正職員2名、非正規職員2名、インターン5名）

連絡先 540-0032 大阪市中央区天満橋京町1-27ファラン天満橋33号室

06-7222-3001（平日10時～16時）

info@dreampossibility.com

<http://www.dreampossibility.com/>